

2020年9月2日

神奈川県知事
黒岩 祐治 様

日本共産党神奈川県議会議員団
団 長 井坂 新哉



熱中症対策に関する要望

今夏は例年にも増して酷暑となっており、気温 35 度以上を記録する日も珍しくありません。総務省消防庁は 7 月 16 日～22 日の 1 週間だけで、熱中症で救急搬送された人の数が全国で 2 万 2,647 人に上り、1 週間単位で集計を取り始めた 2008 年以降では最多になったことを発表しました。搬送された人のうち 65 人が死亡しており、熱中症による 1 週間単位での死亡者数も、集計を取り始めてから最も多い数となっています。年齢別に搬送者数をみると、全体の 46.5% (1 万 525 人) を占め最多となったのが、65 歳以上の高齢者世代です。

神奈川県内の熱中症による救急搬送は 8 月 17 日～23 日で 685 名。これは前年同時期の約 1.5 倍に相当します。気象庁は 9 月に入ってもこの暑さが続くことを予想しています。

さらに、新型コロナウイルスの基本的な感染対策として、マスクの着用やこまめな換気などが求められており、気温・湿度が高い中でマスクを着用したり、換気により室内温度が上がると、熱中症になるリスクが高くなっています。

このような状況のもと、県民の健康と命をまもるために下記の人道的対策を求めます。

記

1. 2018 年 6 月 28 日の厚労省通知の中で、エアコン購入設置費支給の対象外となっている 2018 年 3 月以前からの生活保護利用者に対しても、対象とするよう政府に求めること。
2. 生活保護利用者で、現在、エアコン購入費補助の対象外とされている人であっても、県として独自の補助を行うこと。
3. 生活保護世帯のエアコンの修理費に関しても、設備維持費として費用の支給を行うよう政府に求めること。また夏期加算の復活を求めること。
4. 65 歳以上の住民税非課税世帯に関してもエアコン購入費や修理費、電気代の県独自補助を行うこと。
5. 小中高等諸学校で水分摂取の制限など不適切な指導が原因と思われる熱中症が報告されている。市町村教育委員会を通じ、児童生徒の安全第一の指導がなされるよう徹底すること。